

## 当院における睡眠時無呼吸症候群の診療支援

### 検査から治療までの臨床検査技師としての関わり

◎四元 由香里<sup>1)</sup>、副島 弘光<sup>1)</sup>、森 友香<sup>1)</sup>、立野 久子<sup>1)</sup>、仙場 篤子<sup>1)</sup>、梅原 恵<sup>2)</sup>  
医療法人 七徳会 大井病院<sup>1)</sup>、医療法人 七徳会 大井病院 呼吸器内科<sup>2)</sup>

【はじめに】睡眠時無呼吸症候群 (Sleep Apnea Syndrome: SAS) は日本中に 940 万人の潜在患者がいると推定されている。その中で現在、診断されて治療を受けているのは僅か 50 万人ほどと言われている。SAS は高血圧や動脈硬化の進行、脳卒中や心臓病を引き起こし、適切な治療を行わなければ死亡リスクは高くなる。

【背景】当院では、2003 年から呼吸器内科で SAS 診療が稼働し、現在 107 名の SAS 患者を診察している。我々臨床検査技師も SAS の検査から治療までの診療支援を主治医の指示の下で行っている。SAS 患者の多くは持続陽圧呼吸療法（通称 CPAP 治療）を行っているが、その CPAP 治療を続ける中で問題視される「治療中止＝離脱」に関しても、当院はこの 23 年間で 5% 弱と他医療機関と比べても極めて少ない。そこには、アドヒラנס向上のための主治医と SAS 患者の信頼構築が基盤にあり、CPAP 治療トラブルに迅速に対応できる環境の提供が治療継続に関係していると考えられる。

【目的】現在当院では、呼吸器内科の非常勤医師による

週 1 回のみ SAS 診療を行っているため医師の診療負担は大きい。我々臨床検査技師も簡易検査から精密検査、CPAP 治療後の管理に至るまで診療支援を行っている。主治医の診療支援は昨年から施行された「医師の働き方改革」でのタスクシェアでもあり、そのためには垣根を超えた協力体制が必要になる。我々臨床検査技師も検査説明時に患者が訴えてくる不安や CPAP 治療でのトラブルについても業者との仲介になり対応している。こうした臨床検査技師としての役割について当日発表する。また、2022 年に導入した SAS 患者のオンライン診療についても、アンケート結果からその有用性を発表する。

【結語】当院では、SAS 診療において臨床検査技師が検査から治療まで介入することで診療に貢献している。今後も信頼される継続した SAS 診療を提供できる環境づくりに努めていきたい。

医療法人七徳会 大井病院 臨床検査科  
0995-63-2291 (内線番号 123)